

- 問1 2019年の空港別・訪日外国人の国・地域別割合を示した統計において、韓国からの利用者が約49.4%を占め、成田国際空港（約10.4%）や関西国際空港（約18.0%）と比較してその割合が極めて高い数値を示している国際空港はどこか、名称を答えなさい。（2022年 徳島県公立入試 類似）
1. 那覇空港 2. 中部国際空港 3. 新千歳空港 4. 福岡空港
- 問2 九州地方の南から日本の太平洋側に沿って流れる海流について、低緯度から流れてくる「暖流」であり、周辺地域に冬でも温暖な気候をもたらす特性を持つものの名称はどれですか。（2024年 徳島県公立入試 類似）
1. リマン海流 2. 親潮（千島海流） 3. 黒潮（日本海流） 4. 対馬海流
- 問3 九州地方の長崎県は、その面積が約4,131平方キロメートルで全国37位と小さい部類に入りますが、海岸線の長さは約4,183キロメートルに達し、北海道に次いで全国2位となっています。このように、面積に対して海岸線が非常に長くなっている理由として、最も適切な地形的特徴を選びなさい。（2022年 群馬県公立入試 類似）
1. 大規模な干拓事業が行われ、直線的な海岸線が延びているため。 2. 島が非常に多く、海岸線が複雑に入り組んでいるため。 3. 半島がほとんど存在せず、県全体が円形に近い形状をしているため。 4. 海岸線がなだらかで、広大な平地が海沿いに広がっているため。
- 問4 九州地方に位置するある県は、年間の農業産出額が4000億円を超え、全国でも有数の農業県として知られています。この県の農業産出額の内訳において、豚や肉用牛、ブロイラーなどの「畜産」が占める割合は約60.9%と過半数に達していますが、この県はどこですか。（2016年 福岡県公立入試 類似）
1. 北海道 2. 茨城県 3. 宮崎県 4. 鹿児島県
- 問5 鹿児島県において、豚の飼育頭数が全国第一位となるなど、畜産業が地域を代表する産業へと発展した背景として、土地の性質に触れた説明として最も適切なものはどれか。（2019年 三重県公立入試 類似）
1. 海岸沿いに広がる砂丘地帯が大規模に開発し、塩害に強い特性を持つ家畜を専門的に育てるための施設が集中した。 2. 水はけの悪い低湿地が広がっているため、土地改良を繰り返すことで牧草の生育を促し、乳牛を育てる酪農を中心とした産業構造へと変化した。 3. 険しい山地が多く平地が限られているため、山の斜面を切り開いた段々畑を作り、そこで得られた飼料を用いて小規模な畜産業が行われるようになった。 4. 火山灰層が厚く堆積したシラス台地は、水はけが良すぎて稲作に不向きであったため、乾燥に強いサツマイモの栽培や、広い土地を必要とする家畜の飼育が選ばれた。
- 問6 日本の農業における小麦生産について、2018年の収穫量統計において1位の北海道に次いで、2位、3位、9位といずれも全国トップ10にランクインしている九州地方の3つの県の組み合わせとして正しいものを、次のうちから選びなさい。（2021年 長野県公立入試 類似）
1. 佐賀県・滋賀県・茨城県 2. 福岡県・愛知県・静岡県 3. 愛知県・群馬県・滋賀県 4. 福岡県・佐賀県・熊本県
- 問7 九州地方における各県の製造品出荷額等の統計において、福岡県の出荷額は約8.5兆円、大分県は約4.6兆円、九州全体では約23兆円となっています。これらの数値から読み取れる九州地方の工業の特徴として適切なものを次の中から選びなさい。（2018年 香川県公立入試 類似）
1. 長崎県は、古くからの造船業が集積しているため、半導体関連の工場が多い熊本県よりも製造品出荷額等が多くなっている。 2. 福岡県は、九州地方全体の製造品出荷額等のうち3分の1以上を占めており、大分県と合わせた上位2県で九州全体の半数を超えている。 3. 宮崎県は、広大な農地を活かした食料品工業が非常に盛んであるため、九州各県の中で製造品出荷額等が最も多い。 4. 九州地方の製造品出荷額等の合計は、全国合計の約30.7兆円に対して20%以上の割合を占めており、中京工業地帯を上回る規模である。
- 問8 九州地方の北部、福岡県から佐賀県にかけて広がる平野について述べたものとして、最も適切な名称を選びなさい。この平野は有明海に面しており、九州地方を代表する大規模な稲作地帯として知られています。（2023年 福島県公立入試 類似）
1. 仙台平野 2. 宮崎平野 3. 筑紫平野 4. 熊本平野
- 問9 日本列島の南西端に位置するある県の就業者割合について、第一次産業が4.9%、第二次産業が15.1%、第三次産業が80.0%となっているデータがあります。この県の産業構造の特徴として最も適切な説明はどれですか。（2019年 愛媛県公立入試 類似）
1. 広大な土地を活用した米作りや畜産業が盛んであり、第一次産業の就業者が全国平均より大幅に多い。 2. 豊かな自然環境や歴史的背景を活かした観光業が盛んであり、第三次産業の割合が極めて高い。 3. 商業や金融業の中心的機能が集積しているため、卸売業や小売業の就業者が第二次産業の就業者をわずかに上回っている。 4. 大規模な工業地域が形成されており、自動車産業などの製造業を中心に第二次産業の割合が高い。
- 問10 世界最大級のカルデラを持つ阿蘇山が位置する県について、統計資料において第1次産業の就業者割合が約10パーセントと比較的高く、人口密度が1平方キロメートルあたり約240人である場合、この県の名前として正しいものはどれですか。（2019年 愛知県公立入試 類似）
1. 長崎県 2. 鹿児島県 3. 宮崎県 4. 熊本県
- 問11 ある都市の統計において、第3次産業の就業者割合が約84.5%と非常に高く、65歳以上の高齢者割合も約31.0%に達している場合、その都市の産業特性として考えられる内容を次の中から選びなさい。（2019年 佐賀県公立入試 類似）
1. 平野部において高度に機械化された稲作が行われており、周辺自治体に比べて第1次産業の就業者数が出ている。 2. 大都市圏のベッドタウンとして機能しており、都心部へ通勤する会社員が多いため、夜間人口が昼間人口を大きく上回っている。 3. 温泉などの観光資源を基盤とした宿泊業・サービス業が産業の主軸となっており、観光に従事する人々が産業の大部分を占めている。 4. 高速道路のインターチェンジ付近に半導体工場などの工業団地が形成されており、製造業に従事する第2次産業の割合が高い。
- 問12 北西から南東に向かって緩やかに標高が低くなっている台地において、地形の特徴に合わせた一般的な土地利用の説明として正しいものはどれですか。（2020年 静岡県公立入試 類似）
1. 標高にかかわらず、北西側は冬の季節風を避けるために住宅地となり、南東側はすべて畑として利用される。 2. 標高の高い台地の上は水が得やすいため田として利用され、標高の低い谷底の平地は浸水の危険があるため畑として利用される。 3. 標高の高い台地の上は果樹園として一律に利用され、標高の低い場所はすべて森林として残される。 4. 標高の高い台地の上は水が得にくい畑として利用され、標高の低い谷底の平地は水が得やすいため田として利用される。
- 問13 九州地方の筑紫平野に関する説明として、温暖な気候や土地の高度な利用方法の観点から、最も適切な説明はどれですか。（2026年 和歌山県公立入試 類似）
1. 連作障害を防ぐために、数年ごとに栽培する作物を入れ替える輪作を大規模に導入している。 2. 1年のうちに同じ水田で2回米を収穫する二期作を行い、食料自給率の向上に貢献している。 3. 稲作の収穫が終わった後の水田を裏作として活用し、小麦などを栽培する二毛作が盛んである。 4. ビニールハウスを利用して夏野菜の成長を早める促成栽培を行い、冬の出荷額を高めている。